

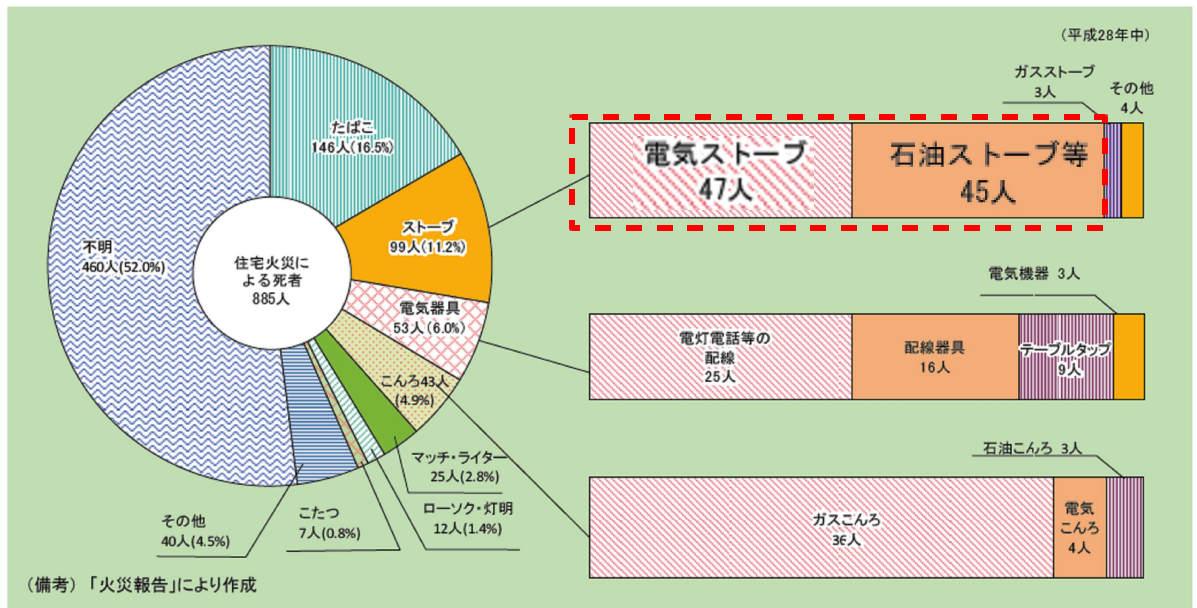
ストーブ火災に注意しましょう！！

最近全国的にストーブからの出火と思われる火災により死傷者が発生する事案が相次いでいます。

暖房器具として身近なストーブですが、使用方法等を誤ると非常に危険です。

総務省消防庁の平成29年版消防白書によると、平成28年中の住宅火災による死者885人のうち、発火源別の死者の99人がストーブによるものです。

第 1-1-11 図 住宅火災の発火源別死者数（放火自殺者等を除く。）



以下の点に注意して、火災を起こさないように注意しましょう。

石油ストーブでの火災

事故の概要

【事例①】住宅がほぼ全焼し、1人が軽傷を負った。

【事例②】近辺の複数の住宅が全半焼し、1人がやけどを負った。

【事例③】住宅が全焼し、1人が死亡、1人が軽傷を負った。

事故の原因

【事例①】

給油の際に石油ストーブを消火せず、また、給油タンクのふたが確実にしまっていないなかったため、灯油がこぼれて引火したものです。

【事例②】

石油ストーブの上部に干していた洗濯物がストーブの上に落下して、引火したものです。

【事例③】

石油ストーブに灯油と間違えてガソリンを給油したため、異常燃焼を起こしたものです。

【再現実験】



タンクから漏れた灯油に引火しました



上部に干した洗濯物に引火しました

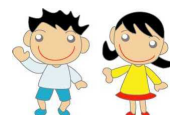


誤ってガソリンを給油したため発火しました



事故防止のために

- ◆ 給油の際は、必ず消火してから行ってください。
- ◆ 給油した後は、給油タンクのふたを確実にしめ、灯油が漏れないか確認してください。
- ◆ 洗濯物の乾燥等、機器の上部や周囲に可燃物を置かないでください。
- ◆ ガソリンは使用しないでください。



暖房器具の事故

事故の概要

【事例①】住宅から出火し、部屋の一部を焼いて1人が死亡した。

【事例②】居間付近から出火し、住宅を全焼して1人が死亡した。



カートリッジタンクから漏れた灯油が引火しました(再現実験)

事故の原因

【事例①】石油ストーブを消火せずにカートリッジタンクに給油したところ、カートリッジタンクのふた(ネジ式)の締め方が不完全だったため、セットしようとした際に漏れた灯油にストーブの火が引火したものです。

【事例②】電気ストーブのそばで眠っていたため、布団がヒーター部に近づいて着火したものです。



ふとんがストーブに触れた16分30秒後に着火しました(再現実験)



事故防止のために

- ◆布団やカーテン、新聞、雑誌など可燃物の近くで使用しないでください。
- ◆洗濯物等を器具の上に吊したり、乾かさないうでください。
- ◆就寝時は必ず火を消し、外出時は電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ◆温風のあたるところにスプレー缶やカセットこんろ用ボンベを放置しないでください。
- ◆温風暖房機(ファンヒーター)は、温風の吹出口や吸気口ふさがないでください。
- ◆ガスや石油を燃料とする器具は、必ず換気をしてください。

